



概要

本事業は、明海大学が教育連携に係る協定を締結し、これまで様々な取組を実施している東京都足立区教育委員会、千葉県浦安市教育委員会及び秋田県横手市教育委員会と連携し、小学校英語指導者認定協議会(J-SHINE)の協力を得て、小学校教師の負担を軽減しつつ質の高い授業を行える指導体制を構築するという趣旨を踏まえ実施したものである。

I. 対象と目的

本事業では東京都足立区、千葉県浦安市、秋田県横手市の公立学校教員を対象に「小学校外国語科等講座」を実施し、目的を「小学校の学級担任の多くが抱えている小学校外国語科・外国語活動の指導に対する不安感を払しょくし、授業に積極的に取り組む意欲を向上させるとともに、円滑に指導できる指導力及び英語力を養成すること」とする。

II. 講座概要

本講座は令和2年10月から12月にわたり、全5回実施した。各回とも当日の受講だけでなく、ウェブサイトで提示される事前や事後のタスクにも取り組んでもらった。

【受講前】 受講者がオンライン講義資料をダウンロードし、事前に提示されたタスクに取り組み、講座当日に臨んでもらった。

【受講当日】 ワークショップ型の講義をオンラインで受講してもらった。

【受講後】 講義アーカイブ動画を視聴したり、提示されたタスクに取り組んでもらった。またリフレクションシートへの記入や講座評価アンケートへの回答を3日以内に実施してもらった。

III. 各講座内容及び質問・回答（抜粋）

【第1回講座】 10月20日(火) 15:00～16:30

テーマ：学習指導要領

講師：J-SHINE 専務理事(上智大学言語教育研究センター教授) 藤田 保

内容：学習指導要領に記載されている外国語科・外国語活動の目標・内容等を理解する講座とする。講座の中で、講師と受講者とのやり取りを随時行う(ワークショップ型)。

質問：「触れさせる」の表現について、手を挙げない子にはどうすればよいか。言いたくない子が英語に触れるにはどうすればよいでしょう。

回答：まず、英語を聞きながらワークシートで作業をする(例えば、聞こえてきた内容を表す絵を選ぶ)等も児童を英語に触れさせていることとなります。一方挙手をして当てられた子だけが発言する授業の展開では発言者以外の児童に与えられる発話の機会が限定的になってしまいます。できる限りグループ活動やペア活動を取り入れることで多くの子どもたちに発話の機会を与えましょう。また、声に出す練習をする際に、最初はクラス全員で、次にクラスの半分ずつ、その後もう少し小さいグループ、ペア、個人というように同じ英文を大人数→少人数のように減らしながら繰り返し練習することで、最初は自信がなかった子も安心して練習に参加できるようにする工夫なども大切です。

【第2回講座】 11月18日(水) 15:00～16:30

テーマ：効果的なチーム・ティーチングの在り方

講師：明海大学 多言語コミュニケーションセンター教授 Patrizia Hayashi / 准教授 Tyson Rode
教職課程センター・地域学校教育センター教授 百瀬 美帆

内容：チーム・ティーチングにおける学級担任の役割、ALTの役割について理解できる内容とする。具体的には、ALTとの親和関係の構築方法や有用表現を紹介した後、それらの知識や技能を応用して授業前の打合せに必要なALTとのやりとりや、絵本の読み聞かせなどの活動指導におけるALTとのやりとりを受講者同士またはALT役の講師と練習する。講座中に講師と受講者とのやり取りを随時行う(ワークショップ型)。

質問：ALTは子供たちと一緒に給食を食べるなど(今はコロナ禍で難しいが)、授業以外のさらなるコミュニケーションを望んでいるのか。

回答：多くのALTはそうした活動を望んでいるとは思いますがALTご本人の意向や、管理職の先生方を通して雇用契約内容をご確認ください。

【第3回講座】 11月25日(水) 15:00～16:30

テーマ：Small Talk の実際とデジタル教科書への接続

講師：明海大学 教職課程センター・地域学校教育センター教授 石鍋 浩
外国語学部講師 前田 隆子

内容：本年度から始まった外国語科および外国語活動におけるSmall Talkの実際と教科書のより効果的な使い方を知ることができる内容とする。なお、講師によるMicro Teaching (Small Talkや必然的なActivityなどを含む)を実施する。講座の中で、講師と受講者とのやり取りを随時行う(ワークショップ型)。

質問：スマールトークをしていて、児童が理解していないときに、日本語で説明をしたくなるが、しないほうがいいのか。

回答：無理にAll Englishでなくてもよいと思います。ただし、対話方略の繰り返しや確かめ、他にもジェスチャーや言い換えなどを活用して出来るだけ英語でやり取りしてみましょう。その後どうしても抽象的な表現があり、理解がむずかしいという場合には、その表現を日本語にしてSmall Talkの途中に入れてみてはいかがでしょうか。例えば、We Can! 1のUnit 7 “Where is the treasure?” の導入のSmall Talkで、先生の宝物を写した写真を手に持って、“Look at this picture. These are my treasures. 私が大切にしているものですよ。My diary, my watch, and my family pictures. What is your treasure?”のように、日本語を途中に挟んでもよいと思います。

【第4回講座】 12月16日(水) 15:00～16:30

テーマ：学習指導と評価

講師：J-SHINE理事(玉川大学大学院名誉教授・特任教授) 佐藤 久美子

内容：小学校外国語科・外国語活動における指導と評価の在り方について、具体的なActivityや児童の発表内容に基づきながら理解する内容とする。講座の中で、講師と受講者とのやり取り(Activity)も一部行う(講義+ワークショップ型)。

質問：慣れてきたらアクセント、発音に注意させるというお話がありました。学習指導要領では「発音・アクセントについては、指導はしても評価はしない」と記載されているかと思いますが、いかがでしょうか。

回答：その通りです。また、最初からアクセントや発音を注意すると、自分の考えや思いを話してみよう！という気持ちが薄れます。また、流ちょうに話すなどは、小学校における外国語の目標ではありません。ただし、6年生などには中学校に向けての準備をするのも良いと思います。「英語は強弱のアクセントをしっかりとつけると、よく意味が通じるようになるよ。日本語は高低アクセントで、雨と飴のアクセントの位置が違うでしょう」というような話には、興味を持つと思います。自然とアクセントにも意識するようになるでしょう。

【第5回講座】 12月22日(火) 15:00～16:30

テーマ：小学校英語指導の心得と中学校への接続の期待

講師：明海大学 教職課程センター・地域学校教育センター准教授 金子 義隆 / 教授 石鍋 浩 / 教授 百瀬 美帆
多言語コミュニケーションセンター教授 Patrizia Hayashi / 准教授 Tyson Rode
外国語学部講師 前田 隆子
J-SHINE専務理事(上智大学言語教育研究センター教授)藤田 保
理事(玉川大学大学院名誉教授・特任教授)佐藤 久美子
事務局長 鈴木 菜津美

内容：本講座のまとめとして、小学校英語指導者が知っておくべき第二言語習得と動機づけの基礎理論について学ぶ。次に、中学校英語につなぐために小学校段階で指導すべきことの意味を講義とビデオを通して深める。その後、協力機関J-SHINEの講師3名から受講者へのメッセージがある。最後に、明海大学の講座担当者から、これまでの講座に関する質問を踏まえた回答とともに受講者に対してメッセージを伝える。

質問：疑問に思ったことで、中学校の授業で“eat”を“ate”に教師が自然と言いつつ(リキャスト)していたのですが児童にとっては何で変わったのか分からないままやり取りをしていました。簡単にでも文法の説明をするのは必要だと思うのですが、どうなのでしょう？

回答：過去の文脈がはっきりしている場面では、“ate”を使うことを子ども自身に気付かせることが必要だと思います。そのためには、教師や友達とのスマールトークなどの活動の中で“ate”のインプットにたくさん出会い、自分でもアウトプットしていくことがいいと思います。このような活動を体験していく中で、教師が自然と言いつつ(リキャスト)をしたときに、やがて自分の間違いに気付けるようになると思います。